



NEWS

照明普及会だより

施設例紹介

- 北九州メディアドーム
- 井原駅ビル
- 舞阪町庁舎
- 脇町うだつ町並
- 新潟県立鳥屋野湯公園

平成11年照明普及賞候補の募集

神戸らんぷミュージアム紹介

関西地区活動状況

新刊案内

第35号

平成11年10月

View

施設例紹介 (part1)

●北九州メディアドーム(北九州市)

北九州メディアドームは、老朽化した小倉競輪場の改築に合わせ、バンク(自転車走路)をはじめとする競輪施設イベントのためのアリーナ、最大2万人収容のスタンド及びコンコース、さらにマルチメディア体験施設等の多用途を併設する多目的イベント施設として建設されました。



▲外観全景

▼光源：高演色形メタルハライドランプ



(資料提供：株式会社菊竹清訓建築設計事務所、松下電工)

Award

平成11年照明普及賞 候補の募集

維持員の皆様には、近々応募要領を照明普及会事務局より発送予定です。

応募要領抜粋

(施設・功労両部門共通)

- 維持員より推薦のある者。施設部門については自薦も可とする。
- 平成12年1月末日までに各地区へ応募資料を提出。但し、関西地区については11年11月末日までに提出、もし

くはエントリー完了の事。

- 応募資料は返却しない。また、本会出版物等への使用を承認するものに限る。
- 応募資料には地区によって異なるものもあるので、各地区に問い合わせる。
- 応募用紙の記入は、ワープロまたはワープロ文字切貼りにて作成し提出する。

(施設部門)

- 候補者は施設完成に多大な功績のあった者。
- 平成11年1月1日～12月31日に完成した施設。

Report

あかりの浪漫あふれる 「神戸らんぷミュージアム」

平成11年4月28日、神戸旧外国人居留地の一角に、灯火器の変遷を楽しみながら学べる「神戸らんぷミュージアム」がオープンしました。このミュージアムは、関西電力が昭和63年に「旧北野らんぷ博物館・赤木コレクション」を継承し、その後拡充してきた「関西電力あかりコレクション」を展示しているあかりの博物館です。

館内には、たいまつやかがり火などの原始の「あかり」から、灯台や行灯、ろうそく、西洋や日本の石油ランプ、近代のガス灯、電灯に至るまでの灯火器を燃料種別に系統的に展示されています。

展示室はテーマ毎に8つに分かれて

おり、神戸の旧外国人居留地の街路をイメージして作られた「あかりのミュージアム・ウォーク」から、小さなミュージアムに見立てた各展示室に立ち寄るかたちで見て回れる構成になっています。

各展示室の案内

【人とあかりの出会い】

大型の3面マルチビジョンによる映像で、「あかり」のイメージを時代の変遷を追って紹介しています。

【最初のあかり】

もみぎり、火打ち石、たいまつ、かがり火などの原始的な灯火器を展示しています。

【あかりを灯す知恵】

平安時代から江戸時代に使用された、灯台、行灯、短けい、無尽灯などの和風の暖かな「あかり」を展示。「江戸期のあかり情景コーナー」では、当時の灯火器がどのくらい明るかったのかを知ることができます。

【ろうそくのあかり】

ろうそくの製造工程の紹介をはじめ、燭台、手燭、ちょうちんなどのろうそくを使った灯火器を展示しています。

【文明開化のあかり】

【卓上ランプ】【座敷ランプ】【豆ランプ】などの西洋と日本の貴重な石油ランプを中心に展示しており、館内で最も華やかな展示室。「西洋ランプ情景展示コーナー」では、十九世紀後半のヨーロッパの中心階級の居室を再現しており、当時の雰囲気を楽しむことができます。

【あかりの大革命】

電笠、電球、ガス灯など近代の灯火器を展示しています。

【資料展示室】

あかりに関する資料や古書を展示しています。

【あかりのミュージアム・ウォーク】

旧外国人居留地の街路をイメージして設置。「あかり」にまつわるショーウィンドウ・ディスプレイや調光による昼夜の演出を楽しむことができます。



あかりのミュージアム・ウォーク

その他にも、館内にはランプに関するグッズが揃った「ミュージアムショップ」や、「ミュージアムカフェ」もあり、たっぷり楽しむことができます。

暮らしと文化を照らし続けてきた「あかり」の歩みを、一度、ご覧になってみませんか。

お問い合わせ先

〒650-0034 神戸市中央区京町80番

クリエイト神戸ビル2F・3F

TEL. (078) 333-5310

開館時間▶ 10:00～17:00

(但し入館は16:30まで)

休館日▶ 月曜日

(祝日・振替休日の場合はその翌日)

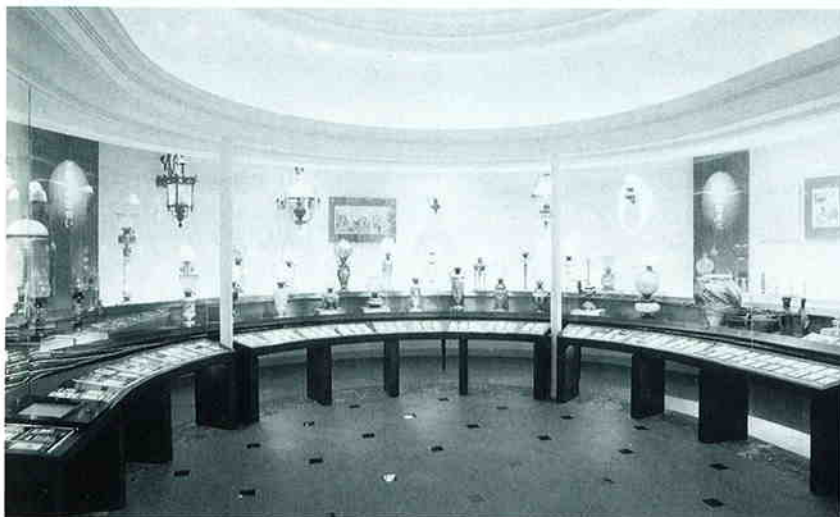
年末年始

(12月28日～1月4日)

入館料▶ 大人400円、小人200円

(団体料金/30名以上)は

大人320円、小人160円



▲文明開化のあかり

関西地区活動状況

関西地区における照明普及活動の一環として、照明学会関西支部との共催、協賛による専門講習会と研修見学会を紹介いたします。

1. 専門講習会

毎年1回開催しており、平成10年度は、11月12日(木)、中央電気倶楽部において開催しました。

今回の専門講習会は「光環境の考察・都市と光の機能」をテーマとし、照明の普及、照明分野の環境視野における改善を目指し、専門家から学生一般を対象に開かれた研修の場を設け、照明の楽しさ、深さを学んでもらう機会を提供することをねらいとしました。

各講演テーマと講師

1. 「21世紀の都市環境照明」
ライティング・プランナーズ・アソシエイツ
面出 薫氏
2. 「建築空間の発言力 インテリア～
エクステリア (ハービス大阪の設計
アイデアについて)」
(株)竹中工務店設計部
苔名 正氏
3. 「都市光害、望ましい光環境」
松下電工㈱
安彦建夫氏
4. 「光環境と植物」
岩崎電気(株)
田澤信二氏

▼滋賀県立芸術劇場「びわ湖ホール」外観



今回の聴講者は、建築環境設計、照明設計、建築インテリア関係を学ばれている学生、そして一般の方々を対象とし、合計91名の出席がありました。

講師陣には建築照明計画のエキスパートにも加わっていただき、建築設計者としての照明に対するアイデアを語っていただくとともに、実務上のプロセス経験に関しても言及していただきました。受講された皆さまにとっては大変興味深い講習会となりました。

2. 研修見学会

本年度の研修見学会として、平成10年照明普及賞を受賞した滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールの見学会を6月18日(金)に開催いたしました。

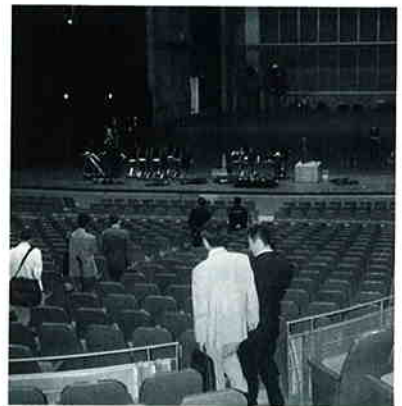
今回は、最初にピアザ淡海・滋賀県立県民交流センターにおいて、「劇場の照明と設備」と題し、松下電工の村上利夫氏と所広光氏のお二人から講演していただき、その後びわ湖ホールに移動して見学いたしました。

当日は悪天候にもかかわらず、約40

名の方々の参加を得ることができました。

びわ湖ホールは優れた照明施設だけでなく、大ホールは劇場としても、コンサートホールとしても卓越した音響、照明空間を醸し出すホールとなっています。

今後も幅広い層の皆さまに照明に対する関心が高まるよう照明普及活動をさらに実施、展開してまいりたいと考えています。



▲大ホール見学

Book review

新刊案内

住まいの照明マニュアル

平成5年に初版を発行した「住まいの照明マニュアル」は、イラストや図、写真を多く用いた住まいの照明に関する解説書としてベストセラーとなっております。本書を更に充実すべく、今回増補改訂版を発行致しましたので、この機会に是非お求め下さい。

● 本体価格：2,330円(税・送料別)
お申込は普及会事務局へFAXにて
FAX：03-5294-0102

平成11年度版

「住まいの照明手帳」

毎年10月21日に行われる「あかりの日」キャンペーンに使用されるPRリーフレットとしても馴染み「住まいの照明手帳」の平成11年度版が完成しました。今回はリビングライティング「家族が集うあかり」を特集ページとしました。

10月14日から19日まで、東京電力の

PR施設である渋谷「電力館」において、平成11年(第19回)「あかりの日」行事の一環として、第5回「全国小学生手作りスタンドコンテスト作品展」が開催されます。全国の小学生から様々な力作が集まりますので、お近くにお越しの際は、是非お立ち寄りください。

なお、表彰式は10月17日に行われる予定です。

編集スタッフ

主査：神保圭志(関西電力)、幹事：織田光枝(松下電工)
委員：小川史世(岩崎電気)、秋津純子(小糸工業)、渡辺勝彦(東芝ライテック)
水島保之(三菱電機照明)、頼本雄高(ヤマギワ)、濱本隆義(関西電力)
押田直子(照明普及会)

施設例紹介(Part2)

●井原駅ビル(岡山県井原市)



▼井原駅夜景

ワーは、色温度5000kのメタルハライドランプを使用し夜間、正面の駅前通り側から見たとき、光の塔としてシンボリックに浮き上がるように計画されています。

(資料提供：三菱地所/三菱電機照明)

▼井原駅コミュニティホール



▼舞阪町庁舎議場

●舞阪町庁舎(静岡県浜名郡舞阪町)

この庁舎は、東海道の宿場町として栄えた舞阪町の新庁舎として、誕生しました。

最上階にある議場は自然採光が十分に確保され、天井に町章と地域性をモチーフにしたオブジェがあります。さらに天井全体は周囲の「ブラケットにより象徴的に照らし出され、空間の透明感を醸し出しています。

(資料提供：ヤマギワPDC)



▼うだつ街並

●脇町うだつ町並(徳島県脇町)

「うだつ」とは隣家との境の2階の壁面に設けている火よけの壁のことをいい、町並みには古い商家の面影を伝える瓦葺き、塗籠め壁の重厚な家々が軒を連ねており、「重要伝統的建造物保存地区」に指定されています。

各民家の軒先に地場の石「砂石」を使用した照明灯を設置し、高圧ナトリウムランプの暖かみのある光で「うだつ」のある夜景をたのしむことができます。

(資料提供：小糸工業)



●新潟県立鳥屋野潟公園(新潟市)

鳥屋野潟公園は、広さが約270haで、「森と湖」をテーマに、カナル(運河)、自然生態園、総合スポーツ施設などがある公園です。

カナル橋広場は、水辺への階段を利用した広場で、各階段に光ファイバー照明を利用しイエロー・ピンク・ブルーの3色をライティングで順次、自在に変化させさわやかな光のシーンを作り出しています。

(資料提供：東芝ライテック)



▲カナル広場(1)
(3色の光ファイバー照明でさわやかな光のシーンを演出:ピンク)



▲カナル広場(2)
(イエローのシーン)